

環境教育の現場に活かす —自然科学系ミュージアムでの子どもワークショップ 現状調査と人材育成—

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

研修会参加者 **66人**

子どもワークショップ
調査 **7施設**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **100%**



博物館の現場スタッフを対象とした研修会

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- 様々な手法やテーマで活動を試したが、上位目標の見直しや議論を十分にできなかった
- 外部との連携体制やアピールが不十分で協働運営の形を作るのに時間がかかった

■ 工夫した点

- 外部の事業協力が主体となって、一緒に事業を運営する形を目指した
- 本事業に共感した方々が気軽に事業成果を活用できるよう研修会のパッケージ化を行った

課題

自然に親しむ心を育む目的で、全国の博物館では子どもワークショップが盛んに開催されているが、その現場・手法に関する情報は極端に少なく、評価されていない現状がある。

目標

博物館で開催される子どもワークショップに関する調査や研修会の開催を行い、全国の普及教育スタッフと協力して課題を考え、現場に還元できる方法を見出す。

活動内容と成果

【博物館子どもワークショップ調査】

- 7施設・4地域で調査することができた(群馬・東京・大阪・和歌山)
- 5施設の調査は普及教育に興味のある方々に呼びかけ、のべ29人の参加があった

【研修会の開催】

- 島根と沖縄で3回開催し66人参加(館種34施設)
- 島根の研修会は地元の博物館関係者の皆さんが実行委員会を立ち上げ事務局が共催する形で実施した
- 研修会など展示するためのポスターを作製し4施設で展示ができた
- 9割以上の方から研修内容について「実践現場に還元する」という意見があった



報告書のポスター展示

全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動を通して、研修会や調査という形で、博物館の現場スタッフの「実践知の共有」を目指してきた。その結果、「子ども」というキーワードがあれば、館種や分野に関係なく、多様な現場スタッフの交流を生み出すことができ、またそれが望まれていることが分かった。課題解決の答えを作り上げるには時間がかかるが、関わる団体・施設が増えることで、現場に還元できるヒントを増やすことができた。



参加者同士で意見交換する調査の様子

〒546-0034
 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23
 大阪市立自然史博物館内
 電話：06-6697-6262
 E-mail：hakowatch@gmail.com
 HP：http://www.omnh.net/npo/
 FB：https://www.facebook.com/HAKOWATCH/



今後の展望

博物館の現場スタッフの「実践知の共有」ができる研修会のパッケージ化を行ったので、ぜひ本事業の活動を積極的に広報し、他館での事例を増やしたいと思う。3年間の活動成果をまとめ、2020年度に「全日本博物館学会」に参加し、本事業について全国の博物館関係者に発表予定。研修会の共催者を探したいと考えている。また2021年に島根県の米子水鳥公園から研修会実施の依頼があり、現在、開催に向けて調整中。